

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 福島区

学 校 名 野田小学校

学校長名 石崎 厚史

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 69 名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語・算数の両教科ともに平均正答率は、全国平均を上回っており、各領域の達成状況はこれまでと同様の傾向である。ただ、本年度は国語での「読む領域」が全国平均よりも約8ポイントプラスと高い割合になっており、昨年度の「書く領域」の向上と共に、これまでの研究による日常授業の改善の成果が出てきていると考える。
- ・正答数分布グラフの傾向も、両教科ともに、これまでと同様であり、学力中位層の子が大半である。昨年度までの課題である、学力上位層の向上については大きな伸びは見られないが、研究の視点である「個別最適な学び」の促進の継続がまだ必要である。ただ、算数よりも国語のほうが、ばらつきが少なく、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3つの領域すべてにおいて平均正答率が全国平均よりも高い。
- ・児童質問紙「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という自己選択・自己決定に関わる質問項目では、肯定的な回答が94%を超えるなど、自分で学びを進める土壌が整ってきている。また、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」や「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」などの協働的な活動を見取る項目においては、肯定的な回答が両方とも95%を超えており、授業における協働的な関わりが定着しているといえるだろう。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

・中央値10、標準偏差2.4という結果は昨年度と同様の結果であり、学力低位層が伸びてきており、中位層に集まってきている。これは、算数よりも顕著である。その中位層の子どもたちがもっと向上できるようにしていくことが課題である。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域の中で「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の平均正答率が全国平均よりかなり高く、授業の中で「話す」「読む」といった活動を地道に続けているからである。特に「読む」領域は、全国平均よりも約9ポイントも高く、「複数の資料を読む」といったことにも取り組んでいるからだと考えられる。

【算数】

・中央値11、標準偏差3.7である。国語よりは分布にばらつきがあり、多様な学力層に対応する必要がある。ただ、中央値が11といわば学力高位層に近い子どもが最も多いため、その子たちに焦点を合わせて授業を進めると低位層の子たちが難しい状況に置かれることが考えられるため、習熟度別学習をはじめとしてこれまで実践していた低位層への丁寧な指導の継続が必要である。

・16問中、わずか3問だけが正答率が全国平均以下という結果である。全体としてよく理解できているといえるが、その3問中の2問が図形領域の問題である。野田小での毎年の課題であるため、作業や作図、実物資料の活用により図形に親しむことやICT機器による空間認識を高めるような工夫を授業で行っていく必要がある。

質問調査より

・今年度、プラスの要素として顕著な項目は、「毎日、同じ時刻に寝ていますか」という①生活面に関する項目（最肯定回答が全国平均より+28.4）「自分にはよいところがあると思いますか」（最肯定回答が全国平均より+8.8）「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」（最肯定回答が全国平均より+17.9）といった②自己肯定感に関する項目、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」（最肯定項目が全国平均より+13.2）「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」（肯定的回答が90%）「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」（肯定的回答が97%）といったような③他人との協働・協力の面などがある。①に関しては学校での授業や啓発活動、保護者の協力などが要因として考えられる。②に関しては、各学級での取り組みの成果である。③に関しては、これまでの授業改善やボードゲーム等の学級づくりが積みあがってきていると推測できる。

・マイナス面として顕著な項目は少ないが、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」において3時間以上している子どもが全国平均より約11%も高い。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の「いけない」という回答が全国平均より低い数値になっている。また、昨年度も課題としてあがっていた「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の項目では、全国平均より-18.1パーセントであり、これからのさらなる活用を模索していく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

◎これまで約5年間の授業改善や学級づくりでの教職員の地道な努力により、学習面、生活面両方に大きな成果が見られている。授業づくり、学級づくりにおいて、各教職員の持つ子ども観、教育観、および指導技術を野田小学校の財産として、メンター研修や各学年での打ち合わせなど継続していく工夫が必要である。

◎研究の視点である「個別最適な学び」「協働的な学び」の授業を進めていく。学力高位層の停滞はまだ解決できておらず、学年の実態に合わせた工夫が必要である。「個別最適」という言葉だけにとらわれず、どの子も学びに向かうような方法を試行錯誤していく。

◎学習者用端末をはじめとしたICT機器の活用は、まだ改善の余地がある。使うことが目的になっては本末転倒であるが、使うことによって見えてくることも多い。Society5.0のデジタル社会で生きていく子どもたちには必要不可欠な技能となるので、得意な先生が中心となって大いに活用し、そこから有効活用していく。特に図形領域の空間認識に活用する。

【 全体の概要 】

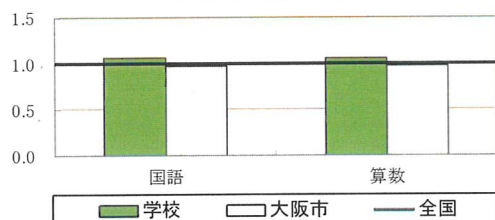
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	72	67
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

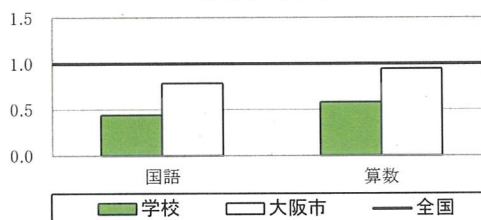
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	1.9	2.0
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



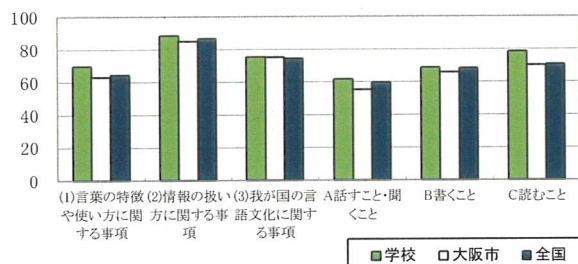
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	69.9	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	88.4	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	75.4	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	61.8	55.3	59.8
B 書くこと	2	68.8	65.9	68.4
C 読むこと	3	78.7	70.1	70.7

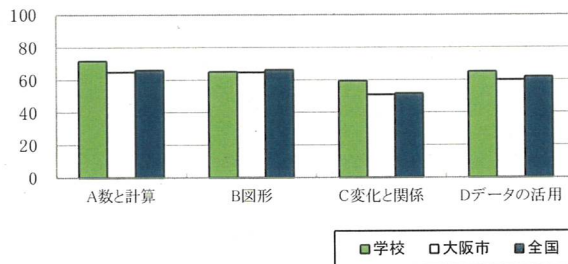
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	71.7	64.8	66.0
B 図形	4	64.9	64.6	66.3
C 測定	0	/	/	/
C 変化と関係	3	59.4	50.8	51.7
D データの活用	4	64.9	60.0	61.8

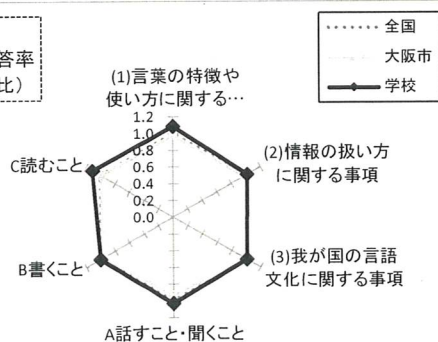
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



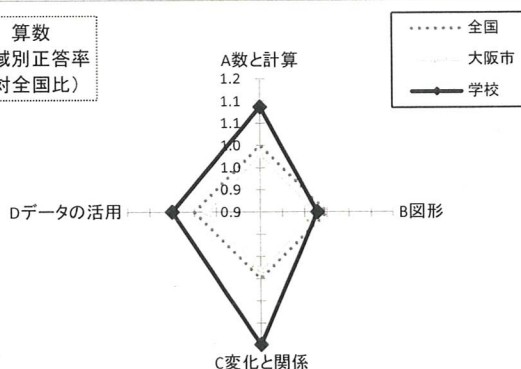
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



児童質問より

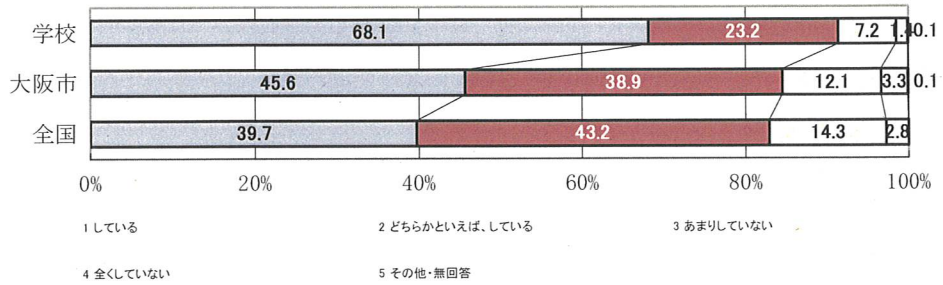
質問番号

質問事項

2

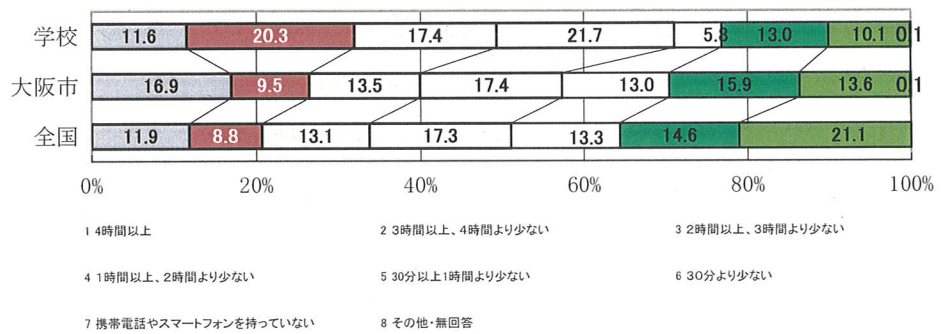
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

□1 □2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8



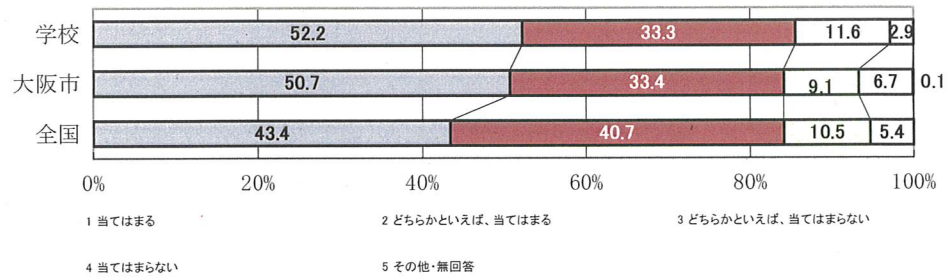
6

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



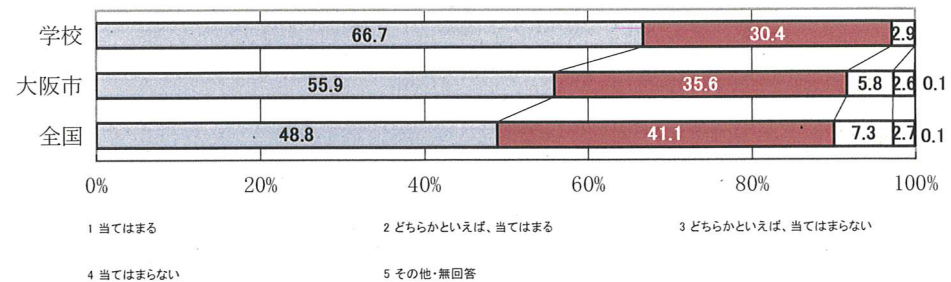
9

自分には、よいところがあると思いますか



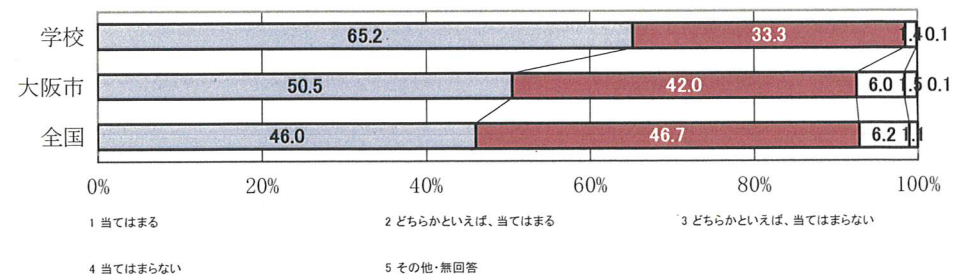
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



12

人が困っているときは、進んで助けていますか



児童質問より

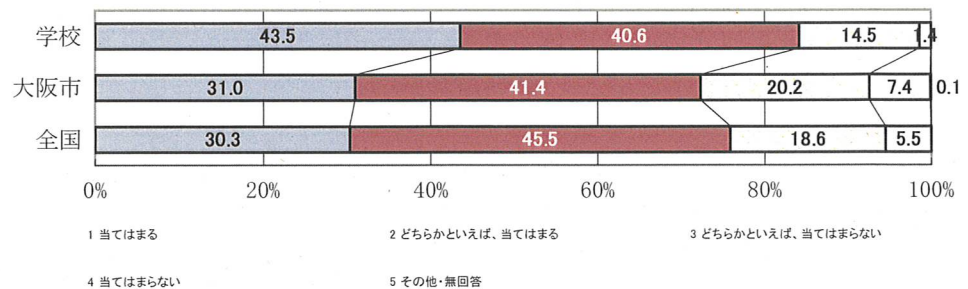
質問番号

質問事項

17

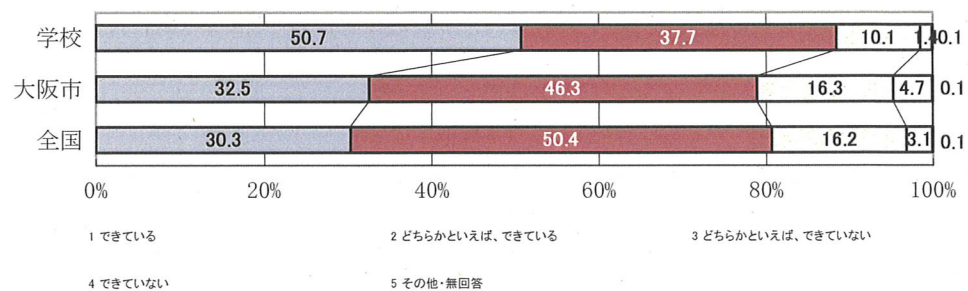
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8



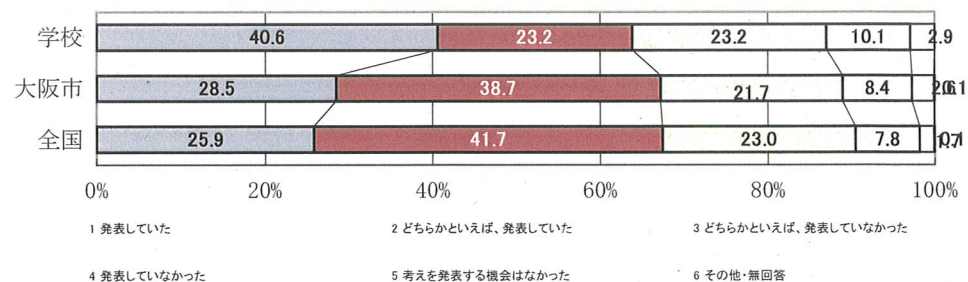
20

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



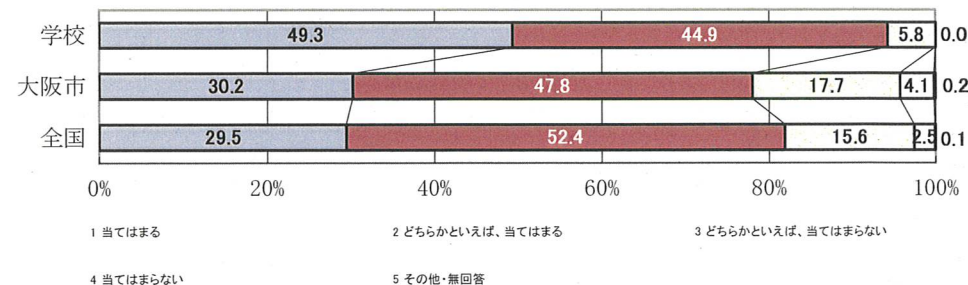
29

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



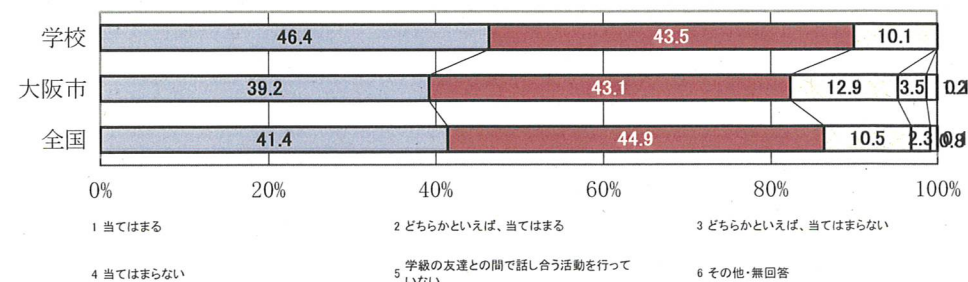
30

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



児童質問より

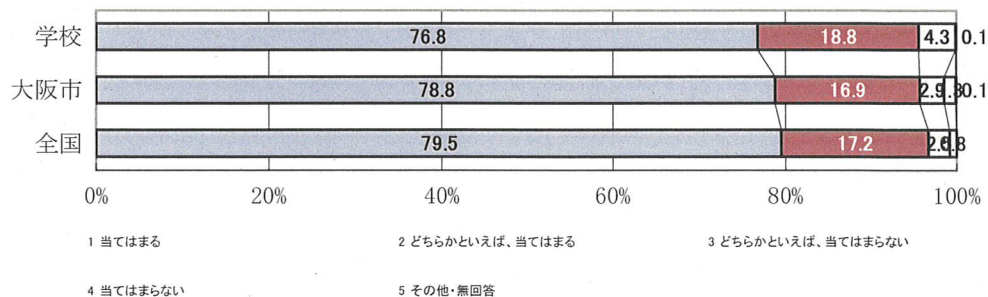
質問番号

質問事項

13

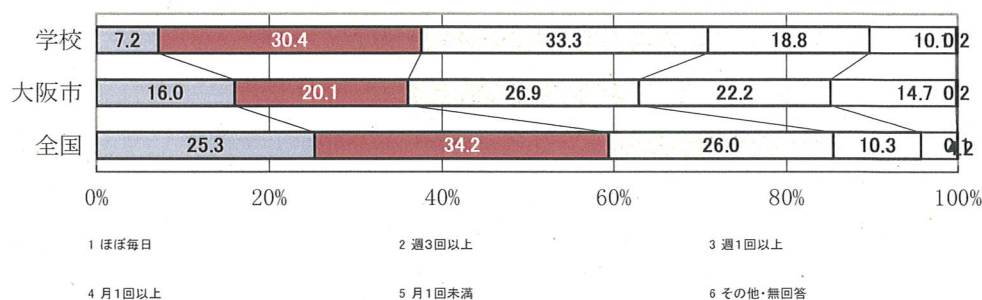
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8



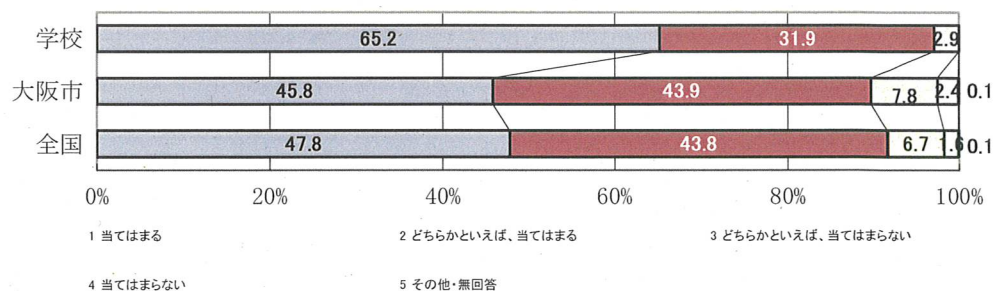
27

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



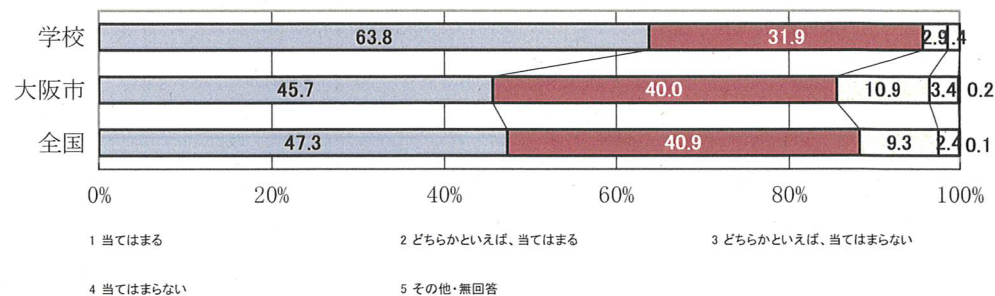
37

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



41

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



学校質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

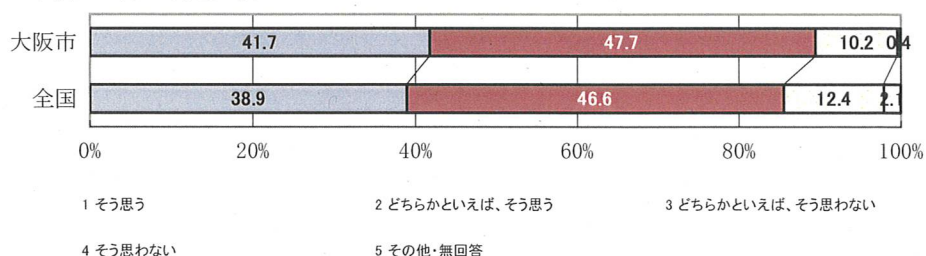
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

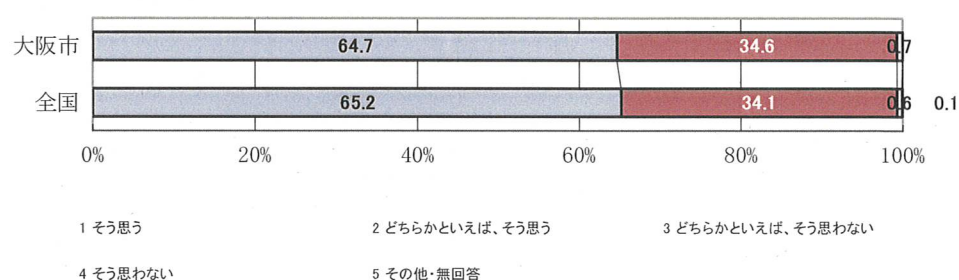
学校「そう思う」を選択



20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

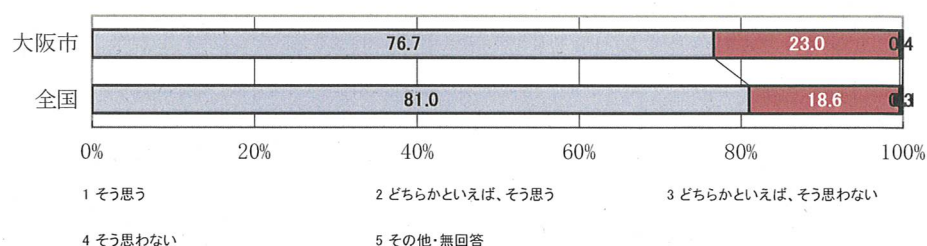
学校「そう思う」を選択



21

各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

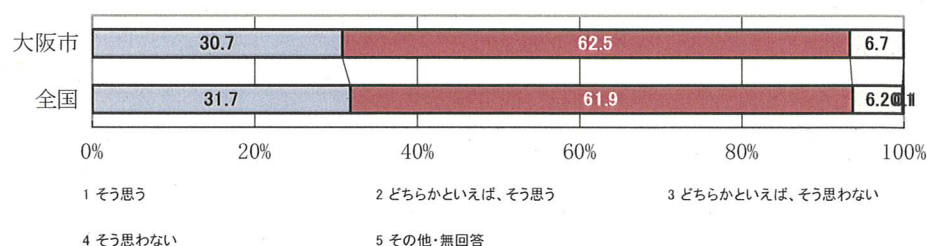
学校「そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校「そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校「よく行った」を選択

